

＜大林素子さん主演舞台 千秋楽レポート＞
戦後72年を飛び越えて
『MOTHERマザー～特攻の母 鳥濱トメ物語～』
10月21日(土)に千秋楽を迎え全公演を満員で終演！

株式会社エアースタジオ (本社:東京都墨田区、代表:大橋由紀子) は、舞台『MOTHERマザー～特攻の母 鳥濱トメ物語～』の千秋楽を10月21日(土)に迎え全公演日程を終了いたしました。本公演は10月5日(木)の東京公演より全国3箇所(東京/静岡/岐阜)で計11回行われ、全日程満員で大盛況となりました。

本公演は、大林素子さん(鳥濱トメ役)が初回から主演を務め今年で9年目。今年は、戦争を今一度考えるべき節目の年として迎えました。東京公演では、5日間で計8回公演行われ、各回で涙を流す来場者の様子が印象的でした。また、東京公演最終日には本公演のエンディング挿入『いつか、また。』を歌うモノクロームの五十嵐公太さん(元JUDY AND MARY)も来場し、出演者の志気も最高潮の中大盛り上がりで終演しました。静岡公演では、舞台終了後に地元出身の出演者2人によるスピーチが行われ、「地元で公演を行う事が出来て本当に良かったです」と地元への感謝を述べるなど地方ならではの公演となりました。

そして迎えた千秋楽の岐阜公演では、カーテンコールにて大林さんからの挨拶があり「舞台「MOTHER」も本日、今年最後の公演を終え、来年は10年目を迎えます。日本の未来の幸せのために特攻していった若者が大勢いたという事実を我々世代が後世に伝えて行かねばならないと強く感じています。この舞台を通してこれからもずっとこのメッセージを送り続けて行きたいと思います」と強く今後に向けた意気込みを語りました。

本作は、大東亜戦争末期の時代に特攻隊員達から“母”と慕われた人物“鳥濱トメ”の半生を描いた作品です。特攻隊員たちが出撃前に連日訪れた軍指定食堂「富屋食堂」を舞台に特攻隊員達の死に立ち向かっていく姿や大切にしている家族、夢、恋人への思いと特攻の母“鳥濱トメ”や残された人達の心情がリアルに描き出された感動の作品です。



～あらすじ～

大東亜戦争末期、戦況の悪化に伴い、日本軍は爆弾を抱えて体当たりをする「特別攻撃」を採用した。鹿児島県知覧町にある航空基地からも、連日のように特攻隊が出撃していった。そんな中、特攻隊員たちが、出撃直前に連日、訪れる場所があった。軍指定食堂の「富屋食堂」である。食堂の経営者である鳥濱トメは、明るく気さくな人柄であった為、出撃していく若き特攻隊員たちの心のよりどころとなっていた。隊員たちは、トメに自分の母親の姿を重ねていたのである。彼らは、残されたわずかな時間を富屋食堂で過ごし、よく飲み、よく歌い、夜更けまで語り合った。様々な思いを残して出撃していく特攻隊員たち…トメはただ、彼らを見送ることしか出来なかった…富屋食堂に集う「特攻隊員」と、彼らに母のように慕われた「鳥濱トメ」の姿や心情を丁寧に描いた「MOTHERマザー～特攻の母鳥濱トメ物語～」がここに誕生!!

<『MOTHERマザー ～特攻の母 鳥濱トメ物語～』公演概要>

- タイトル :戦後72年を飛び越えて『MOTHERマザー～特攻の母 鳥濱トメ物語～』
- 特別協賛 :アース製薬株式会社
- 主催 :株式会社エアースタジオ
- 企画・製作 :株式会社エアースタジオ
- 制作協力 :株式会社プロダクションブギ
- 脚本・演出 :藤森一朗(Air studio)
- 出演 :大林素子/ワッキー/泉川実穂 他
- STAFF :演出助手:松丸雅人/制作:家合貴之/宣伝美術:須田祐大/照明:エアーパーサプライ
音響:野口量平/美術:熊谷豪/小道具:今田尚志/撮影:村松直/衣裳・メイク:松野梨沙
舞台監督・大道具:加藤裕己/プロデューサー:小林秀平/アソシエイトプロデューサー
杉澤修一
- 協力 :鳥濱明久/知覧ホテル館/赤羽潤/薩摩おこじょ/特別非営利活動法人知覧特攻の母鳥濱
トメ顕彰会/財団法人特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会/ホリプロ/NPO法人国際芸術文化
交流振興会/劇団空感演人 他
- 公演日程
 - ・東京公演:2017年10月5日(木)～10月9日(月・祝)@新国立劇場/小劇場
 - ・静岡公演:2017年10月18日(水)@静岡市清水文化会館マリナート劇場/小ホール
 - ・岐阜公演:2017年10月21日(土)@不二羽鳥文化センター/小ホール
- 公式ホームページ : http://www.airstudio.jp/index_17mother_tokyo.html
- 公演に関する問合せ : (株)Air studio 03-6659-2830